同志社學生新聞
6頁 20円
発行所
同志社学生新聞局
京都市上京区烏丸上立売通
入同志社学生会館別館2階
電話京都(211)2311内線579
振替 京都 26011番
(発行同志社学生新聞局)

旬刊発行

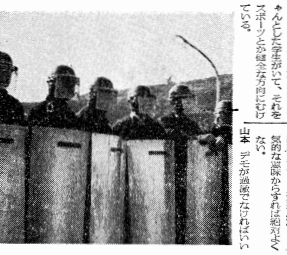
新入生特集号，(2)

大学と学生運動

新入生座談会

本紙編集部は、入学後一週間たった新入生を囲んで、「大学とは何か」「学生運動について」「国際について」などの問題を中心に討論を試みた。この紙面はこのうち、学生運動に関しての討論をまとめたもの。学生運動に対する見解が、一部では消極論として出されている。が、今日の運動に参加されている諸君に、軍用されるという問題の中で、現実のベトナム侵略の国際性と言う意味、昨年の10・21羽田闘争以降の問題点が、大衆的な共通の問題として提起されている。動のはたした質的飛躍が、大衆的な共通問題のなかで、ともかくも、学生運動の意味、

（編集部）



学生運動の持つ意義

マス・ブロがあるから――？

司会　大学とはいって、何だかすべてなんのという問題で、ひとつに学生運動があると思うんですけど、学生運動をするというこれは、どういうことと思いますか。

吉田　あれは、大学の再興と、解放を掲げた生活をするもののことを言っていると思うんです。マスコミなんかで、ちょっと、意味を変えられたり、学生運動がムズかしくなった。

明智　そうじゃないでしょう、皆いろいろエネルギーを発散したいだけの、あるいは自分の思想を行動で表現するというのが、いろいろ、いま青春のハケ口になっているだけ。

吉田　青春のハケ口だったら、もっとスポーツとか、学生だいて、これを、スポーツとか、学生だいて、これを、

山本　学生が感じてなければいいんだ。

明智　マスコミがあるからって、学生運動はやっぱりもってって、特に、若い人、より、学生だって、学生が強かったと思う。当然、学生運動があったと思うんだけど。

石田　吉田君の発言で、「青春」とかいうのは、ちょっと、教養だけでなく、社会に目向けるべきだと思います。

明智　学生だってのは、何度もあるし、しかも、思想とかもあるし、しかも、思想とかもあるんだけど。

司会　学生運動だけじゃないのですが、それから思想を行動に表現するという場合、学生にいってはどうです

恒常化する「官憲導入」

完全自治破壊を企図する

京大医学部当局への無許可の導入事件、関学の二度にわたる警官乱入などとかの大学内に対する国家権力の侵害がますます大きくなってゆく。「緊急時に事態を収めるためやむを得ない」と言って、大学当局は、国家の侵害を進んで受け入れようとしている。しかも、学自治の無原則な破壊は、学生自治の恒常化にまで進んでいるのである。これは、国家権力の恒常的な侵略に対する、大学当局の無原則な妥協、学生自治破壊はますます強化されてゆくことを必然的にしてゆくであろう。

当局強制捜査をのむ

医制全国闘争の圧殺企図か

京大医学部

京大医学部当局の強制捜査は、今年の医学部の入学試験の不正問題を発端として、学生側と当局との対立が、ますます深まっているなかで

変らぬ米帝の世界戦略

ベトナム戦争の現段階

後進国革命と先進国ブロック化の阻止

帝国主義との対決を回避する日本共産党

レーニン主義の転落

党拡大のための大衆闘争

『ベトナム和平交渉』と米帝の世界戦略

七〇年安保と日本帝国主義（2）

米世界戦略の橋頭堡 ―ベトナム戦争

米の和平交渉 ―涉の偽瞞性

米帝の政治軍事経済的破綻

支配体制の強化と共産党

帝国主義ブロック化の方向

民族民主統一論の反革命性

官僚的秩序党に転落した日共

●既刊97点

紀伊國屋新書

●定価 ＊印のもの ¥250 それ以外 ¥300

新しい大学生活，又となき青春の希望の門出に，紀伊國屋新書はその好伴侶となるでしょう．

世紀末芸術 高階秀爾
英語・日本語 空西哲郎
＊日本の象徴詩人 窪田般弥
言語と文体 魚返善雄
＊インドの説話 岩本裕
サルトルの文学 鈴木道彦
＊ベルシアの詩人 山田和夫
エイゼンシュテイン 篠原一男
住宅建築 蒲生礼一
芸術と疎外 杉山康彦
＊大衆文学 尾崎秀樹
＊襲名の世代の文学 石一郎
＊ジェイムズ・ジョイス 桶谷秀昭
映画学 浅沼圭司
都市デザイン 黒川紀章
ルネサンス文学 竹内芳郎
現代映画の起点 富士田元彦
ビトジェネレーション 諏訪仁
映像と言語 近藤耕人
愛の思想史 伊藤勝彦
戦後詩 寺山修司
ドラマトゥルギー 山内登美雄
近代日本語 杉本つとむ
色彩の美学 塚田敬
演劇の世界史 青江舜二郎
ブレヒト 岩淵達治
西夏文字 西田龍雄
生活空間の未来像 上田篤
非戦の思想 伊谷隆一
土着の思想 判沢弘
パスカルと現代 田辺保
額田姫王 谷馨
現象学とは何か 新田義弘
肉体の芸術 石福恒雄
中原中也の世界 北川透
テレビ媒体論 志賀信夫
少年非行 樋口幸吉
＊日本人のパーソナリティ 世良正利
＊毒矢の文化 石川元助
＊イスラム法入門 遠峰四郎
＊地域の科学 笹田友三郎
＊現代短詩形文学論 安部一成
＊トルコの歴史 三橋冨治男
歴史のみかた 茅野良男
アフリカの創世神話 阿部年晴
近代化と道徳 小川弘
幕末の社会史 工藤恭吉
近代中国史 蔵居良造
見えない精神史の序論 宮川透
景気と恐慌 大内秀明
金の経済学 梶山武雄
資本論入門 宮本義男
日本古代国家 水野祐
三木清 荒川幾男
苦悩する新興諸国 西野照太郎
人類の染色体 牧野佐一郎
＊海の物理学 南日俊夫
進化学入門 徳田御稔
気象と人間 神山恵三
新しい医学への道 高橋晄正
東京の自然史 貝塚爽平
電子計算機 小野勝章
宇宙科学 福島直
日本の薬学 辰野高司
社会と地球化学 半谷高久
人間の起原 伊藤嘉昭
精神分裂病の世界 宮本忠雄
聴覚生理学への道 勝木保次
宇宙塵・隕石 島誠
日本の地震学 藤井陽一郎
生命現象の調節 増田嘉孝
心身医学 古閑義之

本店：東京・新宿 角筈
渋谷店：渋谷東急ビル三階 紀伊國屋書店

●紀伊國屋新書は，全国有名小売店に常備されています．
●全点の刊行目録は，御請求次第お送り申し上げます．

サークル闘争委の確立
学闘連との結合を
学館闘争に向けて

学園内新規闘争はそれ国家、資本とは第一目の死命を決しているとこの新規闘争の情を映したるの大学の構造的問題である。しかし、今まで闘争は個別的に、ばらばらに闘われて敗北を喫してきた。その経験から、個別闘争を日常的に、今回の学館闘三月末三十二日から三日間行われた文連のクレーン・リリーダースキャンプで提案された。日常活動を行なう闘争委員会の設置、学館闘争委員会の設置、学館闘争委員会の設置、学館

サークル紹介

学術団

サークル存在へ問いかける

いろ〻状況があることに気づかない。

国家が自らの内部的要求によって「大民の福祉」を無視して、その必然性によって人民を苦しめるイデオロギーに吸収しようとする時「要求」にいう言葉は、あれれ空虚以上の何ものでもない。一体、何を要求しようというのか。この状況において、われわれが自己の精神自由を主張しようとする時、ただ一つ、徹底して権力と

研究集団の党派性

権力への思想的武器に

フランス文学研究会
経済研究会
同法会

歌声から何が生まれるか？

合唱団〝むぎ〟

情況への対決回避のサークル論

新財政危機の波に揺れるアーティストの集団が「看板だけ」や「看板」を掲げる歌っている。これが「歌声は平和の力」と彼らは「むぎ」である。

うたう天国の国を夢見まで、「歌声は平和の力」を歌い、「この天国の国を夢見ている」と、歌の力、人間国家を夢見ている。

彼らは言う。いう通りである。日本国際の本学に対する現実、それが合唱団「むぎ」である。

なぜ神秘的、宗教的、民族的、国粋、軍国、神武、皇国、「魂の力」を、「くるはずの」の歌神に、奉仕に向れ、歌に向いて、地にいう若者の間全明

る。身を学生ながら、遊び「ほうこ」の中に、彼らの明るく、勇気を出せる歌を、「つまること」、それ、「現実の世の中」、「現実」、「日常的生活」、「日常的身辺」、「日常的」、「日常的生活」、「日常的」、「日常的」、「日常的